

平成 23 年度第 2 回府中市美術館運営協議会結果報告書

- 1 日 時 平成 23 年 11 月 13 日（日） 午後 1 時 30 分～3 時 45 分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員（順不同・敬称略）
中林・藤原・薩摩・那須・田中・横山
（欠席 平原・高橋・吉澤・松浦・大西・赤松）
事務局
井出館長・山村副館長・菊池管理係長・志賀学芸係長
武居教育普及担当主査・三木主任
- 4 内 容
 - (1) 会長挨拶
 - (2) 府中市美術館館長挨拶
 - (3) 資料内容説明
- 5 議 題
 - (1) 美術館の事業について
 - (2) 地域に愛される府中市美術館の運営について

以下、□は各委員の発言、■は事務局

議題 1 美術館の事業について

■ 平成 23 年 10 月 16 日（日）に府中の森芸術劇場、府中市生涯学習センター、府中市美術館、都立府中の森公園の共同企画として「府中の森の文化まつり」を行った。これは秋の一日に文化の香りを味わっていただくという企画で、美術館には 5,362 名が来館された。文化まつりとしては 3 回目だが、美術館としては毎年この時期に無料観覧日をもうけており今年で 8 年目になる。今年新たにチャリティ事業としてブックフェアと版画墨絵コーナーを開催し、収入を東日本大震災の義援金とした。

次回の企画展は 1960 年代後半から 70 年代にかけて活躍した石子順造というひとりの評論家に注目し、その批評の中でとりあげられたさまざまなものを拾い集め、彼が何を考えどのように感じていたのかを再現しつつ、その時代を振り返ろうというものである。われわれとは何なのか、美術とは何なのかという素朴な疑問を日常生活の中からさぐりあてようとした石子の軌跡をたどりながら、ひとりの批評家をめぐる時代をえぐり取るような、意欲的な展覧会に挑戦する。

公開制作については石子順造が高く評価した方でもあり、現在大変注目を集めている横尾忠則さんをお願いした。

平成 23 年度前半の事業については前回の委員会でお話したとおりである。現在行われている「世紀末、美のかたち」は約 1 万 1 千人以上の入場者がありほぼ順調で、次の「石子順造的世界」が 8 千人の入館者があれば年間 8 万人から 9 万人の入館者

になり、ほぼ平年並みとなる。

平成 24 年度予算については大変厳しい状況だが、展覧会を 5 本予定している。夏休みの子供向けのものを含め 2 本は所蔵品展で、他の 3 本は企画展である。海外もの、現代美術、江戸の絵画の予定。

- 平成 24 年度予算で、美術品購入費についてはどうなるか。
- 何百万円かで予算要求する予定だが、認められるかどうかはわからない。
- 文化まつりについてはよい企画なのでもっと近隣の市にも宣伝したらよいと思う。石子順造展は期待できそうだ。
公開制作のちらしは毎日横尾さんが来ているのかと誤解を招きそうな表記だと思う。
- ホームページ等でわかりやすいように周知する。また、後半の不在時には制作中の映像を流すようにする予定。

議題 2 地域に愛される府中市美術館の運営について（答申案について）

- 「(1) 開館 10 周年を振り返って」は 10 年を振り返ってなのか 10 周年の昨年だけのことなのかわからない。
- 22 年度事業についてだけである
- 昨年だけの事なら「10 周年記念事業を振り返って」にしたほうがよい。
2 番目の「2000 年開館以来・・・」は 10 年を振り返っての意見ととれるが 10 年間の実績をベースにして開館 10 周年でこういう企画をやり好評であったというように導入部分に使用すればよいと思う。具体的にはバルビゾンとアートサイトなど 5 本の企画がそれぞれ充実していた。高橋由一の作品を購入することができたなど。

「美術館の中に他館のポスターや・・・」の部分は除く。
- (2) 地域に愛される美術館と (3) 地域とのネットワークについては一緒にしてよいと思う。
- 出前講座について説明してほしい
- 生涯学習スポーツ課の事業の中に出前講座制度ができていますので依頼してもらえれば文化センターや公会堂などで行うことが可能である。また、授業に取り入れて、学校から要請してもらえれば学芸員が学校へ出向くこともできる。現状として昨年は 2 か所から要望があり学芸員が学校へ出向き展覧会の案内をして好評だった。教育担当のほうでは西高校へ出向いたり、浅間中に講師を派遣したりした。ただ、どちらかというと学校から美術館へ出向いてもらう方を中心にやっている。

- (2) 地域に愛される美術館の2番目と、(3) 地域とのネットワークの4、5番目は、出前講座の関係なので、ベースは美術館での教育普及活動だが、できるかぎり外へ出て行くことも重要である。また、学校側も協力すべきであるというようにまとめてほしい。

「若い作家をとりいれていくのは重要」というところは(4) 学芸員の企画力に入れるべきだと思う。

- 東府中駅が新しくなったので美術館の宣伝がほしい。公園の中を歩いて美術館に来られるような案内がほしい。キャラクターを活かした案内がよい。
- 歩行者だけでなくドライバーに対する案内板がほしい。
- 単なる道案内ではなく広報を兼ねた案内がよい。お金をかけずに地域の協力のもとでできるのが理想。東府中駅からの経路をあらためて大事にしてほしい。

(3) 地域とのネットワークについては、上記意見を踏まえ、駅からの導線を確保することが望ましいが、美術館単体では難しいと思われるので近隣の商店街・公園・駅などとの連携を引き続き模索してほしいという形でまとめてほしい。

- (3) 地域とのネットワークの2、3番については図書館関連なので一つにまとめたらよい
- (4) 学芸員の企画力については、公立美術館はあまり強烈な個性を出せないけれども、1年あるいは3年ぐらいのスパンで総合的にバランスがとれれば、個々の企画展についてはもっと個性をだしてもいいと思うので学芸員の企画力、資質に期待する。
- (5) デジタル化の趨勢と対応については、情報のデジタル化は避けて通れないが、具体的にどうするかは美術館のほうでまとめてほしい。

「彫刻のあるまちふちゅう」のところは削除。載せるのであれば(2) 地域に愛される美術館に入れる。

- (6) 広報についての1番目については(4) 学芸員の企画力に入るのではないかと。ただ、広報についてポイントを絞ると解釈するなら誰に対して何を訴えるのかを明確にするということになる。
経費に限りはあるが、京王線、ちゅうバスなどの交通広告はとても有効なので今後も協力を求めているほしい。

- (7) 教育普及活動と子どもたちについては、話し言葉ではなくしてまとめればよい。
- (8) 居心地、ホスピタリティ、食、アクセスなどについては、レストラン要素は非常に重要なので業者について検討してもらいたい。
- (9) 指定管理者制度の一番目の島根県立美術館の閉館時間については、指定管理者制度になってから始めたのではなく県立時代からやっていたことなのではずす。
- 指定管理者制度を導入するかどうか否かをここで決定する必要がないのであれば、このように意見を羅列しておけばよいと思う。